



国際病理アカデミー

日本支部

A NEWS BULLETIN 1999 Number 4

Published quarterly
by the Japanese Division
of the International
Academy of Pathology

OFFICERS

PRESIDENT

S. Ushigome, M.D. (00)
Jikei University

PAST PRESIDENT

M. Suzuki, M.D. (00)
National Defense Medical College

PRESIDENT-ELECT

R.Y. Osamura, M.D. (00)
Tokai University

SECRETARY-TREASURER

O. Matsubara, M.D. (00)
National Defense Medical College

COUNCILLORS

M. Shamoto, M.D. (99)
Fujita Health University

S. Mori, M.D. (99)
University of Tokyo

T. Manabe, M.D. (00)

Kawasaki Medical School

M. Tsuneyoshi, M.D. (00)
Kyushu University

H. Yamabe, M.D. (01)

Kyoto University

Y. Kato, M.D. (01)

Cancer Institute

COMMITTEE CHAIR

Education

T. Morohoshi, M.D. (00)
Showa University

Finance

K. Maruyama, M.D. (99)
Formerly, Chiba Cancer Center

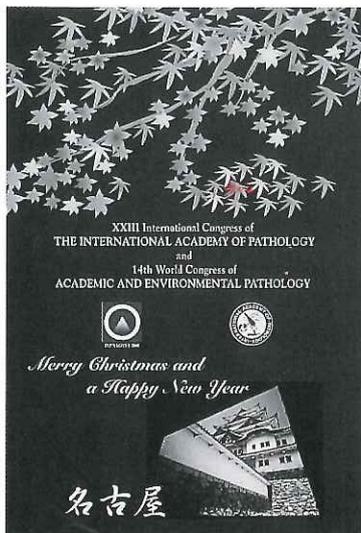
1999年度教育シンポジウム開催される

「病理学領域におけるコンピューターとインターネット
の利用」-日常病理診断業務の支援から学会発表・論文作
成に有用なデータの活用まで-

モデレーター：岩崎 宏（福岡大学第一病理）

1. 序論 岩崎 宏（福岡大学第一病理）
2. 病理におけるコンピューターの応用--可能性と問題点--
向井 清（東京医科大学第一病理）
3. パーソナルコンピューターによる実用的な病理業務システム
 - 3.1. Windows 98桐マクロプログラムを用いた病理業務支援システム
林 徳真吉（長崎大学病院病理部）
 - 3.2. Macintoshとファイルメーカープロを用いた病理業務支援システム
羽賀 博典（京都大学病院臓器移植医療部）特別発言：Windows98, Access97を用いた病理業務システム
鈴木 啓仁、市原 周（国立名古屋病院病理）
4. LANをベースとした病理業務システムと画像データベース
 - 4.1. 病理診断業務LANシステムにおける画像ファイリング
真崎 武、土橋 康成（京都府立医科大学病院病理部）
 - 4.2. 病理業務コンピューターシステムと病理医協会の活動
望月 眞（東京医科大学八王子医療センター）
5. インターネットを利用した病理医の情報交換ネットワーク
小島 英明（東京都神経研・臨床病理）
能勢 聡一郎（岡山済生会病院）
伊藤 以知郎（袋井市民病院）
福田 康夫（阪大歯学部附属病院検査部）
6. 全体討論

1999年度教育シンポジウムが1999年11月20日、9-12時の間、防衛医科大学校、並木会館3階大講堂において行われた。広い会場の座席の追加を用意しなければならぬほどの盛況で、参加者は約150名。岩崎先生の司会で始まり、向井先生の「病理におけるコンピューターの応用--可能性と問題点--」と題するoverviewが話された。体系的にすべてが網羅され、大変参考になるものであった。次にパーソナルコンピューターによる実用的な病理業務システムのセッションでは、まず林先生から「Windows 98桐マクロプログラムを用いた病理業務支援システム」と題する話があり、色々な工夫が大変興味あるものであった。現在は京都大学病院臓器移植医療部に所属するが天理よろず相談所病院の病理にいたときに作ったコンピューターシステムの話が羽賀先生が話された。兼平和徳先生、小橋陽一郎先生、坂元真一先生の4人で分担して開発され、とにかくお金をかけない工夫として転勤する臨床医のコンピューターを譲り受けるなど涙ぐましい努力が聞かれた。プログラムには載らなかったのですが当日突如、国立名古屋病院病理の鈴木氏から「Windows 98, Access97を用いた病理業務システム」と題して病院内の業務コンピューター利用の工夫の特別発言が行われた。LANをベースとした病理業務システムと画像データベースのセッションでは、真崎先生から「病理診断業務LANシステムにおける画像ファイリング」と題しての話があった。臓器撮影、顕微鏡像などの画像デー





タのファイリングの工夫があり、また迅速診断の Telepathology の実際がビデオを使って紹介された。電話で電送された画像の復元性は高く、便利であるとは分かったが、電話一本取り上げると遠隔地から迅速診断依頼という、病理医の忙しさとストレスをますます増やすものではないかと危惧するものでした。次に望月先生から「病理業務コンピュータシステムと病理医協会の活動」と題してWWWを含む広範な話があった。最後に小島先生から「インターネットを利用した病理医の情報交換ネットワーク」と題しての話があった。症例コンサルテーションで役に立った実例の紹介があり、役に立つというより無くてはならないものという印象を与えるものであった。全体討論の後、向井先生から雑誌「病理と臨床」で今日のシンポジウムの内容を特集号として出版する旨の紹介があった。写真は司会の岩崎先生と各シンポジストで、受付は事務局の佐々木と防衛医大学生。Updateなまた大変役に立つ内容のシンポジウムを岩崎先生に企画して頂き、大変感謝したい。また忙しい中を準備をしておられた素晴らしい内容の話をして頂いたシンポジストの先生方にもあつくお礼を言いたい。会場にて配付したハンドアウトがまだ事務局に残っています。ご希望の方は連絡下さい、お送りします。なお、総会で司会の岩崎先生がハンドアウトの内容をインターネットで公開してもよいかとの提案があり了承された。具体的には望月先生の御尽力で病理医協会のホームページ (<http://www.geocities.co.jp/Hollywood/2296/link.htm>) に載せられる予定です。

1999年度スライドセミナー

教育委員長 諸星利男 (昭和大学医学部第一病理)

1999年度スライドセミナーが下記の内容で行われた。

1 時限目 13:00~

- 1 A. 下部消化管の病変
岩下 明德 (福岡大筑紫病院病理部)
- 1 B. 卵巣腫瘍
手島 伸一 (同愛記念病院研究検査科)
- 1 C. 唾液腺腫瘍
長尾 孝一 (帝京大市原病院病理部)
- 1 D. 悪性リンパ腫 (WHO, REAL分類を含む) の病理
菊池 昌弘 (福岡大医学部病理学第一)
中村 栄男 (愛知がんセンター病理部)

2 時限目 15:15~

- 2 A. 皮膚の色素性病変
真鍋 俊明 (川崎医大病理学)
- 2 B. 肺生検 (TBLB) の病理
松原 修 (防衛医大病理学第二)
- 2 C. 内分泌腫瘍
長村 義之 (東海大医学部病理学)
- 2 D. 肝の結節性病変の病理
神代 正道 (久留米大医学部病理学第一)

1999年11月20日の午後、防衛医科大学校内の各教室、具体的には1Aと2Aコースは31番教室、1Bと2Bコースは32番教室、1Cと2Cコースは臨床小講堂(1)、1Dと2Dコースは臨床小講堂(2)で行われた。総会が延びて始まりが少し遅れた。1Dの会場でプロジェクターのトラブルがあり、受講生に大変迷惑をかけ、申し訳ありませんでした。このため2Dコースも遅れて申し訳ありませんでした。防衛医大側ではプロジェク

ターのトラブルがあつてはいけないと前日に業者の方に来てもらい点検を受けていたそうで、かえってそれがあだとなった様です。防衛医大内が広く会場を迷われた方も多かった様です。写真は牛込会長、スライドセミナー講師の岩下、手島、菊池、長尾先生方、受講風景とスタッフの昭和医大病理胸室員の方々。

第3回理事会開催される

1999年度第3回理事会が平成11年11月18日(木曜日)11:40-12:40の間、九段会館 2F千鳥の間において開催された。出席者は牛込、鈴木、長村、社本、森、真鍋、恒吉、山辺、諸星、丸山、松原、佐々木(事務局)で、欠席者は加藤(隣室にて病理学会のシンポジウムの打ち合わせ中)であった。

議題

審議事項:

1. 新入会員の件のこと
2. 理事ならびに役員の変更の件のこと
 - (1) 理事指名委員会の報告(総会の項参照)
 - (2) 第2段理事選挙の結果
 - 投票率は、返信236通/発送596通(投票率39.5%)。
 - 内、無効葉書3枚、棄権葉書1枚。
 - (3) 2000-2002年度理事の決定
 - 任期満了理事: 社本幹博、森 茂郎
 - 新理事: 森 茂郎、橋本 洋
 - (4) 2000年会計監事
 - 現 会計監事: 丸山孝士
 - 次期会計監事: 社本幹博
3. 1999年度決算および2000年度予算の件のこと
 - (1) 1999年度決算報告
 - (2) 1999年度会計監査の報告
 - (3) 2000年度予算案の審議
4. 総会のこと
5. Surgical Pathology Update 2000の新しい企画
6. 2000年Nagoya Congressに向けてIAP日本支部としても財政的な裏付けのある行動を起こすべきではないかとの議論がされた。
7. その他(次回の理事会の開催日:平成12年2月21日18:30から慈恵医大にて)

報告事項:

1. 庶務報告のこと
2. 1999年度病理学教育セミナーのこと
3. 1999年スライドセミナーのこと
4. 第2回JKAHK合同集会和第6回韓日合同スライドカンファレンスのこと
5. 2000年Nagoya Congressに向けての準備のこと
6. 1999-2000年版会員名簿発行とA News Bulletin 1999 #3発行
7. その他

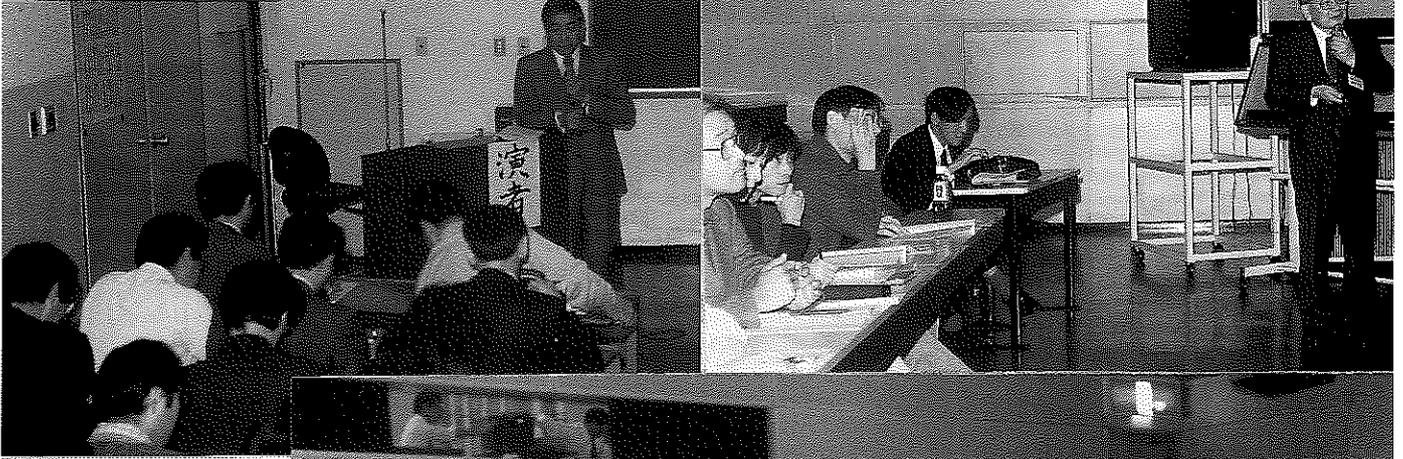
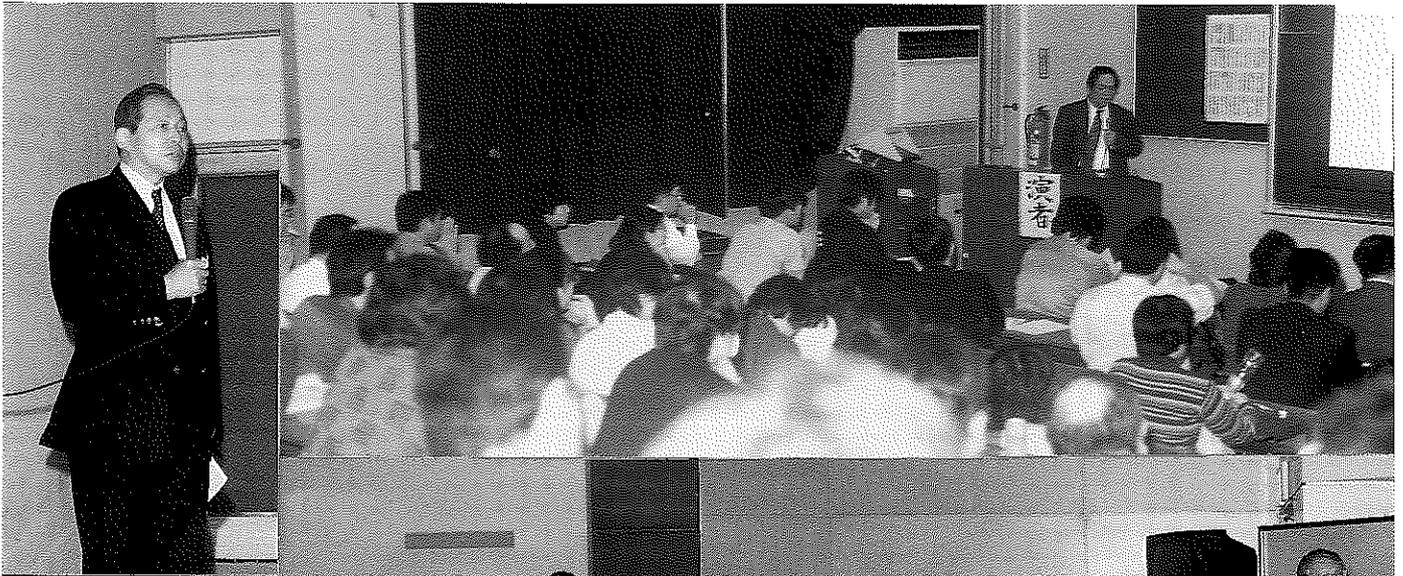
第39回IAP日本支部総会開催される

1999年度第39回総会が防衛医科大学校並木会館3階大講堂にて平成11年11月20日(土曜日)12:00~13:00の間に開催された。

議題:

報告事項:

1. 庶務報告のこと
 - (1) 会員総数 598名
 - (2) 新入会員 9名



ド鏡検を中心とした実習解説と関連分野の特別講演を長村次期会長を中心に企画。今年のFacultyはDr. SG Silverberg, Dr. J Epstein, 日本側から古里、笹野、森谷先生で、6月9日(金)~11日(日)の2泊3日、湘南国際村(神奈川県三浦郡)において開催(定員50名、多い場合は抽選)、参加費は37,000円(宿泊食事代を含む)。申込はIAP日本支部事務局松原まで(Fax 042-996-5193にて)。詳細は次号にて紹介します。

2000年 Nagoya Congress の 2nd circular発行される

森 茂郎プログラム委員長が精力をこめたプログラムがぎっしりの2nd circularが出来上がり、会員各位にも郵送されていると思います。まだお手元に届いていないという方はご一報下さい。日本コンベンションを通じて送ります。

国内、国外から大勢の参加が望まれます。皆さまのご協力をお願いします。

桜井 勇先生退任祝賀会開催される

日本大学医学部長の桜井先生は医学部長を平成11年10月31日で任期満了され退任されました。日大医学部病理学教室が主体となり退任記念祝賀会が平成11年12月11日にホテルニューオオタニの鶴の間にて盛大に開催されました。根本則道教授の開会の挨拶(写真)で始まり、町並陸生日本病理学会理事長、吉田洋二山梨医科大学長、小林慎雄東京女子医大教授といった病理関係の先生方の祝辞、桜井教授のご挨拶、今度日大病理の教授になられた三俣昌子先生の閉会の辞でお開きとなった。日本支部からは牛込会長、長村次期会長、松原が出席した。

桜井先生は日大のためばかりでなく、日本病理学会への貢献も、特に法人化は桜井先生がいなかったらできなかつたろうとまで言われるほど尽くされたと聞いています。その上、IAP日本支部の第5代教育委員長(1990-1992年)と理事(1993-1995年)の役員をされ、大変アカデミーのために貢献されました。ここに改めて感謝の意を表します。今後ともアカデミーのためにご助言を頂きたいと考えています。



~~~~~

## <<< 事務局より三つのお願い >>>

### 1) 年度会費納入のこと-----

同封の郵便局での振り込み用紙で年会費4,000円ほどお振り込みください。前年度、前々年度などもお忘れ

の方もいらっしゃいますのでよろしく。

### 2) 購入希望雑誌のFAX返送を-----

Laboratory Investigation and/or Modern Pathology の雑誌の購入希望用紙も送り返して下さい。事務局の不慣れなことがあって、急いでいます。Laboratory Investigation がIAP会員価格(年間) : 11,000円、Modern Pathology も11,000円です。希望される方は同封の用紙に必要事項を明瞭に書き込んでファックスにて事務局へ送って下さい。英語の氏名、住所、希望雑誌をIAP本部へリストアップして送ります。不明瞭ですと雑誌の送付があやうくなりますのでご協力下さい。なお、購入代金は現金書留にて事務局まで送って下さい。FAXでの申込1月末締切厳守、代金は2月15日締切でお願いします。

### 3) 2000年度の教育シンポジウムとスライドセミナーのテーマについてのご意見を

2000年度の教育シンポジウムのテーマについてご意見を同封のFAX返送用紙でお知らせ下さい。なお、取り上げたらよいと考えられるスライドセミナーのテーマまた講師名についてもご意見をお寄せ下さい。

~~~~~

新入会員の募集について-----

IAP日本支部では、まだ会員となられていない方々の入会をおすすめいたします。入会希望の方がおありでしたら会員申込書(事務局へ請求して下さい)にてお申し込みください。

入会資格: 病理学の経験年数5年以上で、現在病理を専攻されている方。

入会方法: 入会申込書にご記入の上、IAP事務局までお送り下さい。その際、会員2名の推薦が必要となりますが、お近くに適当な方がいらっしゃらない場合は、事務局にご相談下さい、我々が推薦者となることも可能です。入会が承認され次第、振込用紙を送付いたしますので、その後入会金1,000円、年会費4,000円、合計5,000円ほどお振り込みください。特典としては、

1. IAP本部に会員名が登録され、各国支部の活動などが分かります。IAP本部のNews BulletinのInternational Pathology(年4回)が届けられます。2年ごとに開催されるIAP国際会議の連絡を受けやすくなります。
2. IAP日本支部の会報である国際病理アカデミー日本支部のNews Bulletin(年4回)が届けられます。本学会のニュース、海外のセミナーなどの情報が掲載されます。
3. Laboratory InvestigationやModern Pathologyの雑誌が大変安価に購読できます。Laboratory Investigationの市場価格(年間) : 43,500円に対してIAP会員(年間) : 11,000円、Modern Pathologyの市場価格(年間) : 31,200円に対してIAP会員(年間) : 11,000円です。
4. 本学会の病理学教育セミナー(スライドセミナー、教育シンポジウム-日本病理学会の後援-)などに参加しますと、認定病理医資格更新のための単位がもらえます。
5. 終了したスライドセミナーのセットが会員のみ(原則として施設単位)に頒布されます。
6. スライドセミナーのセットが借用できます。

~~~~~

**あとがき** : 今回は1999年最後のNo. 4のプレティンですが、発送は年を越してしまいました。申し訳ありません。本部のプレティンを同封したく待つのですが、年内に来ませんでした。2000年度会費振込用紙、雑誌購入希望調査の返信用FAX用紙を同封しています。プレティンへの投稿歓迎です、emailでどうぞ。

常任幹事: 松原 修/事務局秘書: 佐々木洋子  
〒359-8513 所沢市並木3-2 防衛医科大学校病理学第2  
P: 042-995-1507 / F: 042-996-5193  
E-mail: matubara@ndmc.ac.jp